

### 3. 原木、製材品等その他木製品の輸出入情報

財政部関務署統計によると、台湾の過去 10 年間の原木(C.C.C.コード 4403)及び木製材品(C.C.C.コード 4407)の輸出入データ(うち 2024 年分は 6 月分までで、7-12 月分は未公表)のうち、本章の図表に記載した輸出入総額、金額等については以下の通りである:

- (1) 輸入総額: 輸入と逆輸入を含む。逆輸入とは、輸出された後、事情により返送された貨物、または簡易加工(原産地を変更しない)のために海外に出荷された後、再輸入された貨物を指し、統計実務上、我が国の逆輸入通関手続きに従って輸入された貨物を指す。
- (2) 輸出総額: 輸出と再輸出を含む。再輸出とは、外貨で輸入した後、事情によりその貨物を再輸出した、または簡易加工ののち原産地を変えずに再輸出したものを指す。
- (3) 金額: これら輸出入統計では、輸入は CIF 価格、輸出は FOB 価格となっている。いずれも税引前で、かつ関税、営業税加算前の金額。

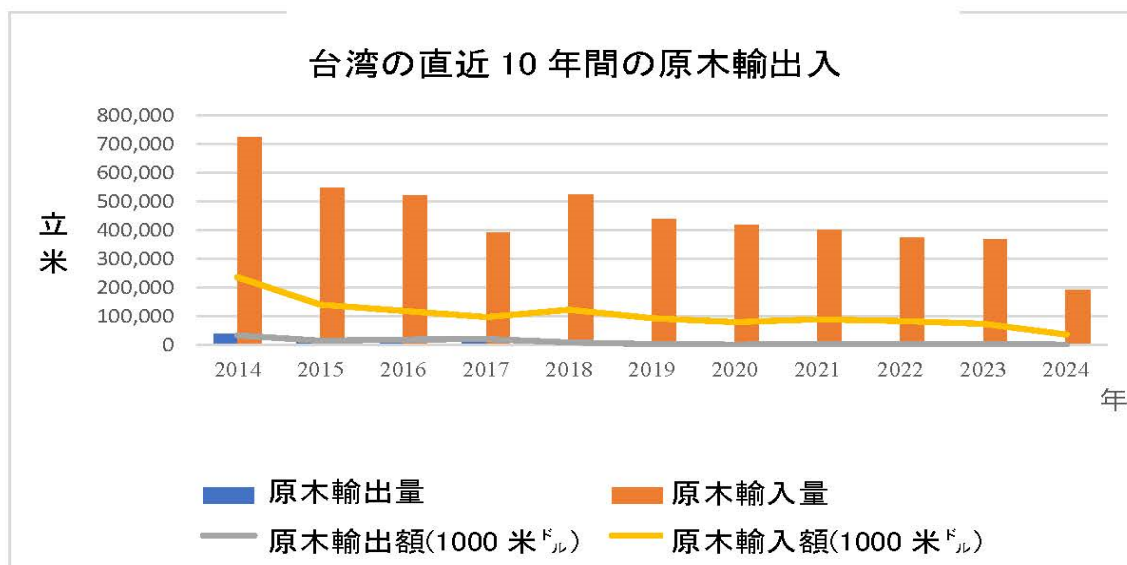


図 1 台湾の直近 10 年間の原木輸出入統計

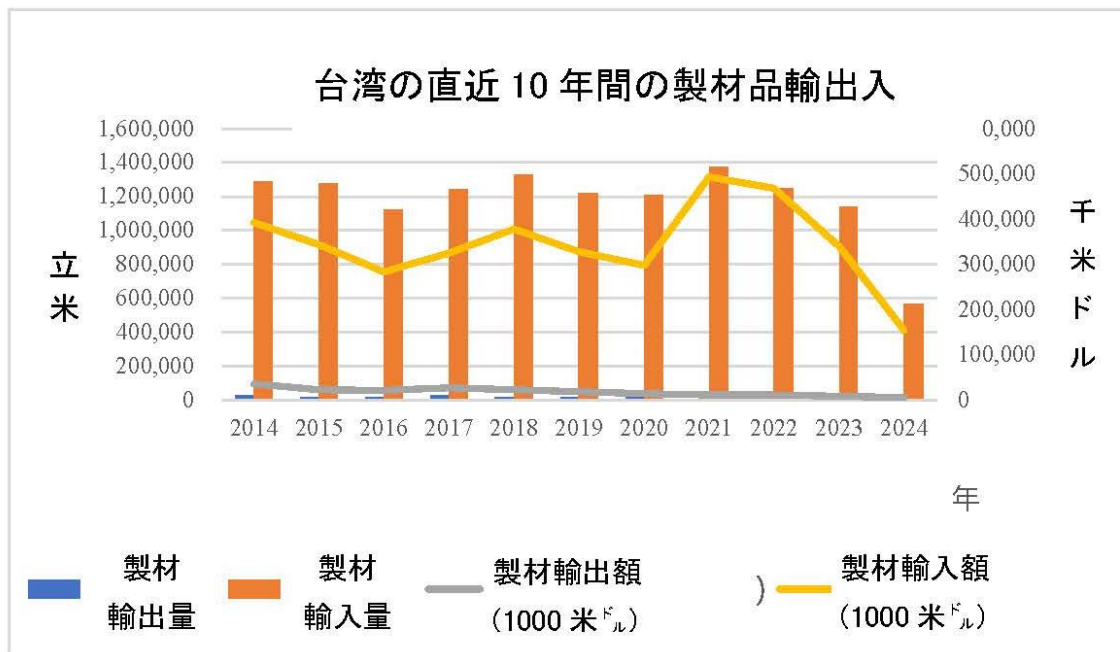


図 2 台湾の直近10年間の製材品輸出入統計

#### 4. 原木、製材品の価格等の情報

表 2 原木価格表(2024年8月)

国産原木 (m³)				輸入原木 (m³)		
樹種	規格	等級	平均価格	樹種	等級	平均価格
ヒノキ	3-5 m,40-60 cm	普通	104,802	ホワイトパイン (米州)	二等(普通)	-
ベニヒ	3-5,40-60	普通	76,466	アガチス(南洋)	二等(普通)	12,700
マツ類	3-5,40-60	普通	3,343	ダグラスファー (米州)	二等(普通)	8,447

国産原木 (m <sup>3</sup> )				輸入原木 (m <sup>3</sup> )		
ツガ	3-5,40-60	普通	3,790	トウヒ(米州)	二等(普通)	3,600
コウヨウザン 2	3-6,7-15	普通	3,936	ベイヒ(米州)	二等(普通)	13,770
スギ 2	3-6,7-15	普通	3,505	ツガ(米州)	二等(普通)	6,585
ベニクスノキ	2-4,30-50	普通	91,000	ホワイトウッド (南洋)	二等(普通)	-
オガタマノキ 1	2-4,30-50	普通	6,790	カプール(南洋)	二等(普通)	12,30
ケヤキ 1	2-4,20-30	普通	34,000			
オーク	2-4,30-50	普通	2,573			
タブノキ類 1	2-4,30-50	普通	2,693			
雑木	2-4,30-50	普通	2,400			
Quercus(櫟) 類 1	2-4,30-50	普通	2,775			

表 3 製材品価格表(2024 年 8 月)

製材国産材 (m <sup>3</sup> )				製材輸入材 (m <sup>3</sup> )			
樹種	規格	等級	平均価格	樹種	規格	等級	平均価格
ヒノキ角(角材)	3-4 m,10.5 cm	普通	-	ホワイトウッド(南洋)	平角材,3-4 cmx30 cmx12 m	普通	21,600
ツガ角(角材)	3-4,10.5	普通	-	ダグラスファ ー(米州)	平角材,3-4x24x12	普通	10,800
スギ角	3.6,6-12	普通	20,700	アピトン	平角材,3-	普通	-

(建築用角材)				(南洋)	4x30x12		
オーク角(角材)	<3-4,6-12	普通	12,600	ラワン(メラン テイ) (南洋)	平角材,3- 4x30x12	普通	21,600
スギ角(角材)	<3-4,6-12	普通	-	ツガ(米州)	平角材,3- 4x24x12	普通	10,800

## 5. 林業・木材加工業に影響を与える台湾の経済・社会政策

### 5-1 農業部林業及び自然保育署

- (1) 植林奨励政策の見直し: 6年間にわたり 60 万元/ha の植林奨励金(初年度は 20 万元/ha、2 年目から 6 年目は 1 年当たり 6 万元/ha、7 年目は 5 万元/ha)を支給するほか、種苗の無償提供、農業プロジェクトへの政策融資、植林技術研修の支援などを行う。
- (2) 林業機具補助金の推進: 1 事業者あたり最高 300 万元の補助金を支給。

### 5-2 内政部国土管理署

- (3) 300 億元の政府家賃補助拡大: 内政部は、行政院に対し、当初の 4 年プロジェクトを 2026 年まで延長することを報告した。また、住宅負担を軽減するため、賃借人が住宅改修や家具購入の意欲を高められるよう、補助対象世帯数を 75 万世帯に引き上げた。
- (4) 住宅補助財源の統合-住宅改修融資利子補給: この措置に、木材加工業に関連する項目として、「間仕切り壁・天井・床の改修」が含まれている。

### 5-3 財政部

- (5) 『青安貸款』—若者が安心して住宅を購入できる優遇ローン」の拡充: 国民の住宅負担を軽減し、「すべての人に適切な住宅を」という目標を達成するため、政府は「新青安貸款—拡充版若者向け住宅ローン」を推

進

するほか、家賃補助、住宅購入・改修ローン利子補給も実施中である。さらに、2024 年末までに目標の 20 万戸の民間住宅建設が達成されたら、2025 年以降 2032 年時点で最終的に 100 万戸に到達させるという新たな目標を打ち出した。これは、住宅を購入する余裕のない若者、中

間層、ひとり親家庭、心身障害者、高齢者などが適切かつ尊厳を保てる住環境を享受でき、住まいにおける社会正義を実現するためである。

## 6. 日本の木製品の市場拡大の可能性

### 6-1 新築建物の内外装推定面積

台湾の木材需要は輸入材に大きく依存している。第3章で示したように、過去10年間に輸入した原木量は約427,917m<sup>3</sup>/年、製材品は約1,131,016 m<sup>3</sup>/年であった。木製材品市場拡大の可能性としては、大型公共工事、治山治水工事、内外装材、内装材等に大別できる。中でも、大型公共工事、治山治水工事は、官公庁の公共事業が多く、入札・調達業務が必要であるため、一般の企業調達に比べ、マーケティング業務が複雑となる。

国土管理署建築許可統計における2023年6月から2024年5月までの建築許可延べ床面積に基づく、新築建物完成後の内外装需要は29,808,941 m<sup>2</sup>、新築木造部の木材使用量は20,121 m<sup>2</sup>と推定される。

### 6-2 木造建築の推進

台湾では、木造建築は一般的ではなく、内政部国土管理署が発表した台閩地区(台北市、高雄市、21 縣市、福建省連江、金門 2 県)建築物使用許可統計によると、2018～2022 年、建築物構造別棟数の割合は、レンガ造 (Brick Structure) 1.53%、木造 (Wood Construction) 0.29%、鉄骨造 (Steel Construction、SC) 14.49%、鉄筋コンクリート造 (Reinforced Concrete、RC) 81.12%、鉄骨鉄筋コンクリート造 (Steel Reinforced Concrete、SRC) が 2.39%、冷間成形鋼造 (Cold-formed steel construction、CSC) が 0.04%、その他構造は 0.13%であった。近年、国内の建築構造は、RC 造と SC 造が中心で、この2つを合わせると使用許可された建物の総数の約95%を占めている。木造建築の割合は0.29%であり、1995年時点の0.06%よりは増えているが、0.5%を超えたことがない。よって、国内の木造建築は発展の大きな可能性を秘めていると言える。もちろん、木造建築の普及に影響を及ぼすボトルネックは多く、その克服が必要である。例えば、木造建築融資期間の短さ、木造の燃えやすさ、耐久性が劣るなど懸念が多い。政府当局に対しては、木造に対する理解を深め、木造建物を制限する不合理な規制を改めるよう提言したい。エネルギー消費が少なく、グリーンで環境に優しい木造が大きく発展することが望まれる。

社会が繁栄し、生活も豊かになるにつれ、レジャーが重視されるようになった。郊外やレクリエーション・レジャーエリアでは木造建築が多くなり、木造住宅建築専門会社の設立も増えつつある。